

# 令和3年度 浜松学院大学附属愛野こども園学校評価結果について

## (自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果)

### 総合評価 B

#### 1 評価項目の達成及び取組状況

評価対象	結果	理由
(1) 幼保連携型認定こども園の教育・保育に関して	A	<p><b>教育・保育目標</b> 「知恵と力を出し合って生き生きと遊べる子」 <b>重点目標</b> 「からだづくり こころづくり なかまづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容について、幼児の健全な心身の発達を図りつつ、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであるという基本をおさえた保育実践に力を入れることができた。</li> <li>・教育・保育をとおして育みたい資質・能力を共通にし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」等を指導計画に位置付け、意識をして指導に取り入れるようになった。</li> <li>・今年度も、特に感染症への予防対策が重要事項となり、園生活の中で可能な限り三密を避け、手洗いうがいの励行、マスクの着用を繰り返し指導し、健康な体づくりへの意識を高めることができた。</li> <li>・行事の開催（学年別運動会、クラス別生活発表会等）や地域の人との交流等、内容の工夫や新たな様式を基とした方法等で、目標が達成するよう努めることができた。</li> <li>・幼児理解に基づいた指導計画の作成、保育実践、反省を基にした改善をPDCAサイクルで捉えて行うことで、子どもたちの心の豊かさ、たくましさの育ちを促すことができた。職員の努力の成果であり、保育者自身の質の向上につながった。</li> </ul>

<p>(2) 保育の実践力に関して (研修を含む)</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人差を踏まえながら主体的に生活できるよう、一人ひとりへの援助ができ、自己肯定感をはぐくむ実践につながった。しかし、特別支援を要する幼児への支援の難しさがああり、支援内容の見直し、保護者との連携がより必要である。</li> <li>・幼児の遊びや生活に楽しさや、潤いを与えたり、試行錯誤したりするための環境や挑戦意欲が高まる遊具や用具の環境等、計画的に用意し、生活全体を充実させることができた。</li> <li>・外部研修は、リモート研修が主であったが、専門的に学ぶ機会となり、保育実践に活かすことにつながった。</li> <li>・園内研修では、今年度は保育部も含め、全員が研究保育を実施し、多面的な意見をそれぞれが自分の学びにつなげることができ、職員の質の向上につながっている。</li> </ul>
<p>(3) 教諭としての資質について (能力・良識・適正)</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育経験に差はあるが、それぞれが園の教育方針を理解し、幼児の思いに寄り添った保育実践に努めることができてきている。</li> <li>・研修、会議等では、自分の意見を述べたり、傾聴したりして、新たな学びを保育に活かす努力をすることができた。</li> <li>・子どもたちの手本になれるような身だしなみ、言葉遣いに自ら気を付けることができ、清潔感を意識できた。</li> <li>・提出物は催促されることなく、提出日を意識して取り組めるようになった。</li> <li>・保育室の環境は、壁面の装飾やザリガニなど小動物の飼育、秋の自然物活動等によって、季節感が感じられるよう準備することができ、時期を捉えた保育環境への意識が高まっている。</li> <li>・室内の整理整頓は、中には苦手な教諭もいるが、避難経路の確保や棚の上に重い物を置かない工夫などできている。</li> </ul>
<p>(4) 教諭同士のチーム力について</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに守秘義務を守りながら、常に相手の立場を考えた行動や言動に努め、職員連携をし、協力体制でいろいろなことにのぞむことができた。</li> <li>・役割や担当について、先輩の教諭から方法について聞いたり、自分が経験することで力をつけたりして、学びに活かすことができてきている。</li> <li>・伝達ミスを招かないよう、丁寧に伝え合い、活動等に支障が出ないようにすることができている。</li> </ul>

<p>(5) 保護者との連携に関して</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児や保護者の個人情報を厳守したうえでの、面談の実施や連絡帳への記載をすることができている。</li> <li>・保護者からの相談や、担任から保護者への報告事項について、指導教諭等の上司に事前に相談をしたり、事後の報告をしたりして、内容を共有している。</li> <li>・保護者の考え方が多様化し、中には担任が対応の難しさを抱えているケースもある。主幹や教頭、園長が場合によっては対応に努めている。</li> </ul>
<p>(6) 地域との連携に関して</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一同、地域に根差した園であることの共通理解を図り、行事等における地域の方のご協力に心より感謝し、伝統的な体験や、自然体験など取り入れ、園児の心身の豊かな発達を促すことができている。</li> <li>・今年度に関しては、感染症予防のため、実施できない行事があったが、園外保育等で挨拶を進んで交わり、田植え・稲刈り体験において地域の人とかかわったりすることができた。</li> </ul>
<p>(7) 危機管理能力について</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の安全と安心を第一に保育室等の避難経路や災害発生時の対応を考え環境を整えている。</li> <li>・教諭の安全面への意識が高まり、怪我の発生やかみつき等が減少するよう努めている。</li> <li>・嘔吐処理の方法や怪我の対応の仕方を理解し、他の職員と連携しながら、自分で対処できる教諭が増えた。</li> <li>・対応マニュアルを理解し、日々、危機感を持って取り組んでいる。</li> </ul>

## 2 総合的な評価結果

結果	理由
<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園の教育・保育に関すること、教諭としての資質、教諭同士のチーム力は、教諭としての対応力が身に付き、それぞれに自己発揮できているものと評価できる。今後も、連携を大切により園児の成長を促すための取組に力を入れていく。</li> <li>・昨年度、A評価であった保護者との連携、地域との連携については、保護者の価値観の多様化による対応の難しさとコロナ対応による地域との連携が減少していることからの結果と受け止める。保護者対応については、担任の悩みを受け止め、主幹、教頭、園長がアドバイスし、安心して対応できるように努めていく。</li> <li>・評価を4段階に分け、具体的に結果を捉えられるようにした。</li> </ul>

### 3 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の実践力に関して</li> <li>・ 保護者との連携について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年ごとに発達過程をおさえた、必要な体験を意図的に計画・実践し、幼児の成長を促す。</li> <li>・ 保護者の考え方が多様化する中で、保護者に寄り添った支援に心掛け、双方が連携し合って幼児を支えていけるようにする。</li> </ul>

浜松学院大学附属愛野こども園 園長 大野 正恵

### 4 関係者評価委員の意見

<p><b>A 委員</b></p> <p>(1)「保護者との連携に関して」は、B 評価であるが、保護者との対応に苦勞する場合等は、A 評価である教諭同士のチーム力をもって、上司も含めて一丸となれば、解決できる。そうなれば、保護者との連携についても A 評価に上がる。</p> <p>(2)「地域との連携に関して」は、運営委員会の委員に地元代表が 2 名入っているので、B ではなく A でも良い。</p> <p><b>B 委員</b></p> <p>(1)全体的には「教育・保育目標」また、「重点目標」に基づき、コロナ禍という非常時の中、よりよい保育実践に努めていると評価できる。</p> <p>(2)「保育の実践力に関して」は、コロナ禍の中、リモート研修等により保育実践の向上に努めていることが伺える。特に、職員全員が研究保育を行い、資質向上に努めている点が評価できる。半面、「特別支援を要する幼児への支援」については、今日の保育における重要な課題でもあるので、今後研修等により更なる実践力の向上に努めることが望まれる。</p> <p>(3)「教諭としての資質について」及び「教諭同士のチーム力について」は、業務遂行にあたり必要な資質を満たし、かつ円滑に実践が行われていると伺える。</p> <p>(4)「保護者との連携について」は、基本的な対応は適切に行われていると伺える。半面、対応の難しいケースもある。家族形態や価値観の変容のもと今後、対応の難しいケースが増えてくることが予想されるため、適切に対応できる体制を整えていくことが必要である。</p> <p>(5)「地域との連携」に関しては、コロナ禍の中、以前と同様の行事・活動が難しい実感が伺えた。しかし、さまざまな工夫を行い、可能な限り行事等を行う努力が伺え、評価できる。</p>
--

(6)「危機管理能力について」は、災害、保育内での危険等に対する対応が取り組まれていることが伺える。特に、静岡県は震災等のリスクが指摘されている地域でもあるため、今後さらなる対応に努めることが望まれる。

C委員

(1)園運営の苦勞が良くわかる。いろいろな保護者がいるだけに、先生たちは本当によく頑張っている。

令和3年度 浜松学院大学附属愛野こども園学校関係者評価委員会委員名簿

NO	氏名	住所	愛野こども園運営委員の要件	備考
1	大野正恵	掛川市	愛野こども園園長	
2	山本淳司	浜松市	愛野地区コミュニティ代表	
3	吉崎成夫	浜松市	愛野地区コミュニティ代表	
4	小栗丈拓	袋井市	愛野こども園保護者代表 (保護者会会長)	
5	安間誉志希	袋井市	愛野こども園保護者代表 (保護者会副会長)	
6	佐々木実保子	袋井市	浜松学院大学講師	
7	坂田温志	袋井市	浜松学院大学短期大学部准教授	